

会 議 録

会議の名称		令和6年度第3回豊里学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和7年1月20日（月）開会 10:00 閉会 12:00		
開催場所		つくば市立今鹿島小学校 音楽室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	金川 清治、大西 重信、伊藤 祐二、柳下 浩一朗 市村 美和、岡田 健一、岡田 真樹、古澤 武司 皆葉 真治、長橋 進也、池田 克美、野堀 憲 岡野 浩則、井上 秀次、松房 道之 渡辺 邦広、神林 ふじ子、中井 玲子、佐藤 貴之 久保 誠、猪狩 幸子、滝口 桐子		
	その他			
	事務局	生涯学習推進課参事：山口 健次 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上 和宏 地域連携教育指導員：酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 学校評価について (2) 「学校評価を踏まえたこれからのコミュニティ・スクールの在り方」		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 前回の議事の確認 4 協議 (1) 学校評価について (2) 「学校評価を踏まえたこれからのコミュニティ・スクールの在り方」			

	<p>5. その他 来年度の予定について</p> <p>7 閉会</p>
	<p><審議内容></p> <p>1 開会</p> <p>古澤会長：ただ今から、令和6年度 第3回豊里学園コミュニティ・スクール協議会を始めたいと思います。なお、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」とされていますが、本日の出席委員数は過半数に達していますので会議が成立していることをお知らせします。</p> <p>はじめに会議を進行するにあたり、書記を決めたいと思います。豊里学園の今鹿島小の滝口桐子委員をお願いします。</p> <p>2 挨拶</p> <p>古澤会長：2025年も1月の半ばとなりましたが本年もよろしく願いいたします。</p> <p>豊里学園のコミュニティ・スクール協議会も第3回ということで、協議会そのものは最後となります。第2回の時に各学校の先生方から、コミュニティ・スクールとして何か協力してほしいこと、また協力できるものについてお話を伺いました。それについて、成果もあったと思います。それらについて、今日は、豊里学園全体としての評価、各学校の学校評価も出ていますので、それらを踏まえて検証していければいいかなと思います。そして今回で終わりということではなく、これが次年度に継続していけるように、これまでの成果と課題について、向き合っていければいいなと思っています</p> <p>岡野校長：豊里学園 学園長の岡野でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>昨年度はコミュニティ・スクールの委員の皆様へ御尽力をいただき、各小中学校で地域の方々の御協力により多様な活動が全体的にできました。豊里中学校でも色々な業種の方を呼んで、キャリア教育の話を8年生対象に行いました。それ以外にも多種多様な業種の方々に御尽力をいただきました。ありがとうございました。</p> <p>今年度の振り返りを行いながら次年度さらに豊里学園の子どもたちが生き生きと夢をもって取り組めるよう、学校の方としてもこの取組を学ばせてもらいたいと思いますので、色々なアイデアや考えを出していただければと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>3 前回の議事の確認</p> <p>古澤会長：では熟議に入る前に、第2回の協議会の内容について振り返っていきたいと思います。前回の会議録を御覧ください。学習活動に必要な教育的資源と人材について話し合いを深めました。なお詳しい内容については、教育委員会のホームページにも掲載されていますので、そちらの方で御確認いただければ</p>

ばと思います。

4 協議

(1) 学校評価について

それでは、豊里学園全体の評価について情報共有をしたいと思います。豊里中学校の渡辺教頭先生お願いします。

渡辺教頭：豊里中学校の渡辺です。まずは今年度と前年と比較して体験を通して学ぶ楽しさを感じることができたと考えています。特にルールメイキングを始め、児童生徒を中心とした話合いや生徒総会など少しずつ子どもたちを中心に学校生活をより良くしようとする活動が多くなりました。そして中学校では、学校行事について生徒たちからの提案による企画を多く取り入れるようにしています。

「ICTを活用して分かりやすいを授業していますか。」という項目については、職員による校内研修を活用した指導力の向上については、県の指導方針にもあるように意識して研修を進めているところなので、高評価に繋がっているものと感じています。

また、つくば市のICT支援員の積極的な巡回等での指導助言や支援のおかげもあり、職員や児童生徒がICTを活用することや、分かりやすい学習指導につなげることができたと考えています。また、地域の専門家を活用し、体験的な学習や活動が増えたと考えています。

なお、課題となった項目についてですが、昨年度からの課題で、「お子さんは難しいことでも挑戦していますか」という項目について著しく低くはないのですが、子どもたちの学校での様子が保護者の皆様に伝わっていないのだと思います。これは子どもたちの自己肯定感に繋がっていくものだと思うので、保護者の皆様にアプローチしていく必要があると考えています。

全体をとおして、昨年度に比べて子どもたちの評価は上がっています。保護者の方々の評価も若干上がってきたということはありますが、変わっていないところもありました。もう少し各学校の活動を積極的に発信していく必要があると感じました。以上です。

(2) 熟議「学校評価を踏まえたこれからのコミュニティ・スクールの在り方」

古澤会長：ありがとうございます。

続きまして、熟議に入りたいと思います。まずは各学校の教頭先生から学校アンケートについて説明をしていただきます。できれば地域人材との関わりがどのような影響を与えたのか、そして保護者にどう伝わっていったのか、何が足りないのかについて具体的に話し合っていたきたいと思います。

今回は熟議の進行にあたりまして、地域主体のコミュニティ・スクールを目指すという点からもPTAの役員さんを中心にファシリテーターをお願いしたいと思っています。

柳下委員：質問があるのですが、豊里学園と他の学園との共通点や相違点があ

れば教えていただければと思います。

古澤会長：それについても、後で報告をしていただきたいと思います。
それでは、熟議に入ってください。

古澤会長：皆さん熱心な熟議をありがとうございました。それでは、それぞれの学校から今回の熟議で話し合った内容について説明をしていただきたいと思います。最初に沼崎小学校をお願いします。

野堀委員：沼崎小学校について発表させていただきます。

「学校評価から見えてきたもの」ということで「あなたの幸せはどのくらいだと思いますか」について、「幸せ=満足度」ということで考えていくと、努力した結果が報われていないのではないかと感じるようになりました。満足度だけが低い理由として、1つは努力した結果が報われていない教員の多忙感が原因として考えられると思います。体験的な学びを入れることや行事を精選すること、学校から子どもたちの様子を伝えることが必要だと感じました。子どもたちの分かったという喜びがまだまだ伝わってこない、そのため一生懸命やっているのに満足度が得られていないのではないかとこの話合いになりました。

次に、コミュニティ・スクールとして実施していく際に、先生方の負担軽減のために地域の人材バンクをいかに作成するかということをお話ししました。そのためには、コミュニティ・スクールのPRが必要だと感じました。それぞれの地区の区長さんたちにまず理解してもらい、地域の人材バンクへの登録をしようという流れで、学校の負担にならないような形で、沼崎小、今鹿島小、上郷小、豊里中学校区の区長さんが集まる会議で、それぞれの地区の区長さんに呼びかけることで、アンケートの結果が活用されるのではないかと考えています。

また、沼崎小学校は来年度、児童クラブとは別に放課後の3時から5時まで学習をする「アフタースクール」のモデル校として選ばれているということで、またいろいろな問題が出てくるのではないかと考えています。例えば、子どもたちのクラス分けや遊び方等々のいろいろな問題が出てくるのではないかと考えています。担当されている方が解決していくと思うのですが、できれば地域の方々にも協力していただけると助かると思います。

古澤会長：続いて、今鹿島小学校をお願いします。

長橋委員：今鹿島小学校の発表させていただきます。

「お子さんは難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」という項目について低評価だったので、どうしてそういうことになるのかという話になりました。失敗を恐れるということについて、失敗したときに子どもたちは落ち込むことが多くて、どうしてかなと考えると、失敗したらどうしようと思うから不安になってしまうのではないかと、できることが当たり前と知っているか

らなのではないかと思いました。

教科担任制については小学校でも導入されているのですが、それについてはいろいろな先生が関わりをもつこと、子どもたちが担任ではない先生から指導を受けることで、新鮮な気持ちになるということが聞かれました。

いじめに関する項目ですが、いじめの未然防止がしっかりとできていると思っています。

最後の幸せ度についての項目ですが、学習を中心とした内容なので、学習以外の項目を入れるなど、もう少し掘り下げて分析ができるといいなと思いました。子どもたちは生活に関するアンケートを1回実施していると思うので、それをまとめた形で公表していただき、またその結果を保護者が見ることができるいいなと思います。

具体的にコミュニティ・スクールとしてどんなことができるかという事ですが、勉強はどうしても成功しなくてはいけない、できなきゃいけないということがあると思うので、体験的な学習をもっと増やして、できなくてもいいと思える体験的な活動を多く取り入れていくといいと思います。今鹿島小学校ではちょうどバスケットボールのオリンピック選手を呼んで一緒にプレーしてみましよう、という体験があったそうなのですが、子どもたちは非常に積極的に、自主的に取り組む姿が見えたので、できなきゃいけないということではなく、体験的な学習をたくさん入れてはどうかという意見が出ました。

それから、大人が子どもを褒めるということが必要だということで、教科担任制では担任ではない先生が褒めることができますし、親が褒めるのではなく他の保護者または地域の方が学校に来ていただいて子どもを褒めるってことが子どもにとって非常に有効に働くのではないかと考えました。そういう活動や体験を学校としてどんどん取り入れていけば自己有用感や自己肯定感を高めることになると思います。まずは自己有用感を高めて、世の中の役に立っているんだよということを実感することで、自己肯定感を高めるということができるのではないかという話が出ました。以上です。

古澤会長：続いて、上郷小学校お願いします。

岡田委員：上郷小学校PTA会長の岡田と申します。非常に難しいテーマでまとめることが難しかったのですが、コミュニティ・スクールの役割や今後どのようにしていけばいいのかということについて話し合いました。

「難しい課題に対して挑戦していますか」という項目について、子どもの評価と保護者の評価に乖離があるので、学校の取組が家庭に伝わっていないのではないかということが出ました。家庭でお子さんの様子をよく聞くということが必要なのではないかと考えました。

コミュニティ・スクールとしては子どもの経験値を上げてあげること、失敗をすると落ち込んでしまう子どもたちの特徴があるので、経験を得られるようにしていくことが必要ではないかと考えました。

コロナを経験して、保護者同士のつながりをもつことや、子どもたちをどうフォローしていくかということについても意見が出ました。難しいことでも失

敗を恐れなくなることで幸福度も高まるのではないか、そこにコミュニティ・スクールが協力して、上手に提供できればいいなという話になりました。以上です。

古澤会長：豊里中学校、よろしくをお願いします。

久保委員：豊里中学校の久保です。

地域人材を活用した部活の地域移行について進捗状況を御報告いたします。現在の地域人材の確保が難しいということがありましたが、学校の施設や学校の道具を使っただけということでは難しいので、地域の施設や道具を活用していただくことが必要だと考えています。

コミュニティ・スクールの在り方ということでたくさんの御意見をいただきました。生徒の評価については、昨年度の結果より今年度の結果の方が若干上がっています。ただ保護者の評価については、「普通」と答えている方が増えています。児童と保護者の結果に乖離があると言う事は先程の小学校でも出ていましたが、たくさんのイベントを開催することをうまくアピールしていくことが必要だと思います。ただ、アピールする方法については、児童生徒の肖像権を守りながらアピールしていくことが難しいと感じています。体験をするということは子どもたちにとって、とても大切な活動ではありますが、コロナ禍で途絶えてしまった活動についても復活させるだけでなく、地域の人と一緒に考えていくことが必要であると思いました。

たくさんの御意見や考えをいただきましたので、学校でも精査しまして地域の方に御協力いただきながら実現していきたいと思っています。以上です。

古澤会長：ありがとうございました。豊里学園のコミュニティ・スクールが協議会となって1年目が終わろうとしていますが、今回のコミュニティ・スクールでも地域の取組を生かして学校教育に関わることができており、とてもいい感じで児童生徒に伝わっているのかなと思います。ただ、発表でもありましたように、まだまだ地域の方や保護者の方へのPRが足りないのかなと感じました。もっと地域の人材を活かして子どもたちの教育活動に関わっていただけると先生たちにとってもプラスになり、子どもたちに対してもプラスになると思います。引き続き次年度のコミュニティ・スクール協議会がさらに今よりも進んでいけるよう、みんなで取り組んでいきたいと思っています。本当にどうもありがとうございました。

5 その他 来年度の予定について

来年度の豊里学園のコミュニティ・スクールについて、中井教頭先生よろしくお願ひいたします。

中井教頭：今年度の豊里学園コミュニティ・スクール協議会は以上で閉会となります。来年度の期日、会場等は、後日連絡させていただきます。なお、委員の選出に関しては、1年ごとの任期となるため、入替等を含めて、次年度に向けて考えております。委員の皆様には後日、御連絡をさせていただきます。その

際は、本年度、活動してみたの感想や御都合等も踏まえてお話をお聞かせいただければと思います。お願いいたします。皆さま、一年間ありがとうございました。引き続き、豊里学園の教育活動への御支援をお願いいたします。

6 閉会

皆葉副会長：本日の「協議」の内容は、以上になります。また、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思っております。差し支えのある場合は事務局までお申し出ください。よろしく願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度 第3回豊里学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度 第3回豊里学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和7年1月20日（月）

10:00～12:00

場所：今鹿島小学校 音楽室（3階）

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 前回の議事の確認

4 協 議

(1) 学校評価について

(2) 熟議 「学校評価を踏まえたこれからのコミュニティ・スクールの在り方」

5 その他

○ 来年度の予定について

6 閉 会

会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回豊里学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和6年9月6日（金）開会 14:00 閉会 15:45		
開催場所		つくば市立豊里中学校図書室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	金川 清治、大西 重信、市村 美和、稲田 優子 坂本 健太郎、岡田 健一、岡田 真樹 池田 克美、古澤 武司、柳下 浩一朗 豊里中学校：校長 岡野 浩則、教頭 渡辺 邦広 教務主任 久保 誠 沼崎小学校：校長 井上 秀次、教頭 神林 ふじ子 教務主任 兒玉 真樹 今鹿島小学校：校長 大竹 伸一、教頭 中井 玲子 上郷小学校：校長 松房 道之、教頭 佐藤 貴之 教務主任 猪狩 幸子		
	その他			
	事務局	教育局生涯学習推進課 参事：山口 健次 教育局生涯学習推進課 係長：飯島 遊 教育局生涯学習推進課 社会教育主事 村上 和宏 教育局生涯学習推進課 地域連携教育指導員 酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由				
議題		熟議「地域と学校が連携して実践できる取組について」		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議	1 開会 2 会長挨拶、学園長挨拶			

次第	3	前回協議事項の確認
	4	協議：熟議「地域と学校が連携して実践できる取組について」
	5	その他 ・今後の予定について
	6	閉会

<審議内容>

1 開会

古澤会長：ただいまから、令和6年度第2回豊里学園コミュニティスクール協議会を開会します。書記を豊里中の久保先生にお願いします。

2 会長挨拶、学園長挨拶

古澤会長：子どもたちのために地域がどんな協力ができるか、学校はどんなことがお願いできるかについて熟議されると思います。よろしくお願いします。

岡野校長：豊里学園の子どもたちのために何ができるのかということ、具体的に話す話合いが行われていくと考えております。よろしくお願いいたします。

3 前回協議事項の確認

古澤会長：前は、委員の自己紹介、会長、副会長の選出が行われました。その後、各学校のランドデザイン、学園のランドデザイン、教育活動の説明をしていただきました。熟議では、子どもの良さを伸ばし、課題を解決するためにはということで、話合いを行いました。

4 協議

古澤会長：「地域と学校が連携して実践できる取組」について話し合っていきたいと思います。

渡辺教頭：最初に資料を基に、地域教育資源および人材を活用可能な学習活動について話し合ってください。その後、各グループの代表者による協議を行います。最後に全体での共有として、各学校の代表から内容を報告します。

各学校グループでの熟議（30分）

古澤会長：各グループでの発表をお願いします。

沼崎小グループ（神林教頭）

- ・学校での子どもたちの活動に協力していただくことも大切だが、災害に備える活動や地域を大事にする活動なども重要である。

- ・学校とつないでくださる方だけでなく、実際に活動してくださる方がたくさんいるとありがたい。

上郷小グループ（岡田真樹委員）

- ・人材バンクのように取りまとめて、学校側の希望とそれに合った人材をつなげていくシステムが必要である。
- ・豊里学園の各小学校が抱えている人材を小学校間で水平展開したり、中学校は上でまとめたりできると効率良く人材を活用できると良いのではないかな。

今鹿島小グループ（中井教頭）

- ・学習で活用できる人材を探す場合は、指導者を探すのではなく、先生を補助する人を探して、協力していただく等ハードルを下げることが必要である。
- ・ハードルを下げることによって年配の方の協力がいただきやすくなり、人材が確保しやすくなるのではないかな

大西委員

- ・つくば市の生涯学習指導員として登録している方がたくさんいて、いろいろな活動をしている。
- ・茨城県でも指導員の方が登録しているので、パソコン等で検索して人材が出てくるのでそこから選んでみてはどうか。

古澤会長：熟議、ありがとうございました。各学校から様々な資料が出たので具体的に話しやすかったと思います。私が思うのは、コロナ禍による制限があり学校と保護者あるいは地域とが少し離れざるを得なかった時期があったのだと思います。制限によって以前のように保護者や地域の方が学校に協力しづらい状況になってしまったのではないかと思います。熟議での資料を作るにあたり、その学校の先生方に話を聞いたのだと思います。今回、資料を作ってくださいだったので、先生方はこの単元でこんな人の協力をいただきたい、この授業で保護者の協力がいただきたいなどの意識がもてるようになったのではないかと思います。ですので、学校は保護者や地域と関わりながら子どもを育てる意識を、保護者や地域は学校と関わりながら子どもを育てるという意識を醸成していかなければいけないのではないかと思います。しかし、その方法は難しいと思います。コミュニティ・スクール協議会に直接参加していない方達に、PTAの行事、学校からの各種おたより、学校HPなどで、知らせていって、少しずつ醸成していくことが大切であると思います。これからは、保護者も地域も、学校で地元の子どもを育てるのだという意識が必要になると思います。先生方も地域に協力してもらっていいのだという意識をもつことが必要なのだと思います。大西委員からデータでの人材の活用方法について、貴重な意見をいただきました。各学校からも、人材はあるけれどなかなか整理できない。あるいは、取りまとめをするコーディネーターがいない。そのため、人材が活用しにくいということが出ていました。このあたりのことが、これからの課題の一つになっていくのかと思うので、各学校で何か良いアイデアがあれば出していただきたい。また、全てを取りまとめるコーディネーターは難しいですが、授業だけ、体験活動だけなど部分的なコーディネーターがいればお願いしやすくなるのだと思います。次回の3回目までに良い案があれば出していただいて、上郷小の

PTA 会長さんからあった、水平展開ができればみんなで広げることができるので、豊里学園のみんなが有意義なコミュニティ・スクールになっていくのではないかと思います。最後にみなさんから何かありますでしょうか。

大西委員：つくば市の放課後子供教室のコーディネーターが 10 人ほどおります。その方がいろいろな情報を持っています。そこから各学校に連絡されて、放課後子供教室を行っています。そこから調べていただいても良いのではないかと思います。

古澤会長：貴重な意見ありがとうございました。本日の協議の内容は以上になります。また、本日の会議の様子は、つくば市教育委員会HPに掲載させていただきますと思います。

5 その他

渡辺教頭：第3回のコミュニティ・スクール協議会は、令和7年1月20日（月）今鹿島小学校で実施する予定です。詳細は追ってご連絡します。よろしくお願いいたします。

6 閉会

古澤会長：以上をもちまして、令和6年度、第2回豊里学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。

コミュニティ・スクール協議会(推進会議)に関するアンケート(学園名:) どちらかに○(地域住民・教職員)

項目	あてはまる部分にチェック(○)を入れてください	あてはまる	どちらかという あてはまる	どちらかという あてはまらない	あてはまらない	判断できない
1	学校運営の基本方針の承認にあたり、協議会委員(推進会議の構成員)による議論を行う					
2	学校運営に関して率直な意見を述べる機会がある					
3	教職員の任用について提案や意見を述べる機会がある					
4	地域住民側からの意見や提案が持ち込まれることがある					
5	子どもの意見を反映させる機会や仕組みがある					
6	協議会(推進会議)内は、忌憚なく意見を出し合える雰囲気がある					
7	学校、家庭、地域全体で育てたい子ども像が共有されている					
8	校長等、教職員の異動に関わらず、継続して議論ができる体制がある					
9	協議会(推進会議)で議論すべき課題の選定、議論の企画段階から関わることもある					
10	学校側の提案事項を承認するだけでなく、より良い学校運営のために建設的に議論することがある					
11	協議会(推進会議)で決定して、実施した取組に対して、振り返りや内省を行う時間がある					
12	協議された事項の実行にあたり、学校長は期待される役割を果たしている					
13	議論の結果、各主体(学校・保護者・地域の大人等)が実行すべきこと・役割分担が明確になっている					
14	学校の問題や悩みは、協議会委員(推進会議の構成員)の中で共有されている					
15	協議会(推進会議)での協議内容について、十分な情報発信が行われている					
16	当事者意識をもち、学校運営に参画したと感ずることができる					
17	協議会(推進会議)への参加回数をご記入ください					回
18	その他 ご意見があればご自由に記入してください(裏面もご使用ください)					